点訳フォーラムＱ＆Ａ

2021年４月～2022年３月版

その他

１．

文中に、最高裁第一小法廷平成12年３月９日判決のことを記した文章を（最一小平12.3.9民集54巻13号）と書かれています。続けると意味が分からないので（最■一■小■平■12■3■9■民集■54巻■13号）と点訳してよろしいでしょうか。

【Ａ】

（最一小平12.3.9民集54巻13号）は、語句のまとまりごとに区切って、

（サイ数１ショー■ヘイ■数１２■数３■数９■ミンシュー■数５４カン■数１３ゴー）と書いてよいと思います。

最一小は、最高裁判所第１小法廷、民集は、最高裁判所民事判例集の略記ですので、続けて書いてよいと思います。

２．

両面印刷と片面印刷は、どのような使い分けをするとよいのでしょうか。

絵本の点訳で扉、奥付も入れて、両面印刷で全体が16ページくらいになります。お子様も対象ですので片面印刷にするとよいのではないかという意見があります。18行と22行ではあまりページ数で変わりはないと思いますが、いかがでしょうか。

【Ａ】

絵本で全16ページとしても、それをサピエ図書館に登録する場合は、32マス×18行の両面印刷が標準となりますので、サピエにアップするデータは、標準サイズにしてください。

サピエにアップしない場合は、以下を参考になさってください。

１ページ18行と比較して、22行は行間が狭くなり、児童や点字の読みに慣れていない人には読みにくくなります。18行の方が行間にゆとりがあり、読みやすいですから、点字の読みに慣れていない人や点字を読み始めたばかりの児童には、32マス×18行の設定で、奇数ページにだけ入力し、偶数ページは、一番上の行の一マス目に改ページマークを入れ、空白にします。ページ付けは、データの奇数ページに、1、2、3、4･･･と入れます。

このようにして片面印刷します。

このほか、低学年向けの絵本などを点訳するときの留意点は、「点訳に関する質問にお答えします」の参考資料「2　その他」にもありますので、参考にしていただければと思います。

３．

子どもの算数に関する本です。

10円玉２枚で「何円？」と聞くと、「ニジューエン」と正解、100円玉２枚見せて「何円？」と聞くと「ヒャクニエン」と答えた。

100円玉が３枚、10円玉が２枚、１円玉が４枚あれば、これは「三百二十四」円であって、「百三十二一四」円とは思わない。

700＋900で、100が７個と９個で16個なのでとりあえず答えはジュウロクヒャク、それを改めてセンロッピャクに直す。

こんな時のカタカナや漢字で書かれた数はどのように点訳するのがいいのでしょうか。仮名のままか　数符を使う方がよいのか、仮名の場合のマスあけも迷います。

【Ａ】

正しい数の読み方ではないので迷いますが、内容は数字を指しているので、できるだけ数字で書いた方が読んでいて分かりやすいと思います。

最初の「ニジューエン」と「ヒャクニエン」は、数字の書き方で、数２０=エン、数１０２=エンと書いてよいと思います。

２番目の「三百二十四」円は、「数３２４」エン

「百三十二一四」円は、１００が３枚、１０が２枚、１が４枚を一つの数字のように言っていますので、「ヒャク数３■ジュー数２■イチ数４」と書いてはどうでしょうか。

「ジュウロクヒャク」は、「ヒャク」を位のように見なしているので、「数１６ヒャク」、その後ろの「センロッピャク」は「数１６００」と書くのがよいと思います。

今回のご質問には、数字の誤った読み方の特殊な例もありますので、それには当てはまる規則はありません。ですので、読みやすさ、わかりやすさを考えて上記のような工夫をしてみました。

４．

原本で、機械が文章を読みあげる場面です。

「ぷろでゅーす　を　まかせる」「にんきとうひょう　をやる」

とある場合、助詞の「を」の処理は、「てびき」の規則「付属語は自立語または付属語に続ける」の原則に従うべきでしょうか。あるいは、原本の意図を踏まえ「墨字原文を、その内容に出来るだけ忠実に置換えること」に従うべきでしょうか。

同じような文で、病気の子が、苦しそうに訴える場面もあります。

「私の　ために

お　ね　が　い

もう　あと　そう　ながく　い　き　な　い

おね　がい　お　ね　がい」
このような場合は、どう処理すればよいでしょうか。

【A】

このような場合、一律の処理方法はありませんが、まずは、本来の分かち書きで点訳し、前後の文脈から十分伝わる場合は、その方法をとります。

それでは、文意が損なわれるような場合は点訳挿入符で補う方法もあると思います。また、会話文で一音ずつ発音しているような場合で、そこをマスあけして書いた方が、原文の意図が伝わる場合は、そのような書き方もあると思います。

原本の種類や前後の文脈から、読みやすさやわかりやすさを考慮しながら工夫する必要があります。

ただ、助詞・助動詞を語頭につけたり、それだけを離して書くのはできるだけさけたほうがよいと思います。

最初の機械の発音は、助詞の位置が気になりますので、
「プロデュースヲ■マカセル」「ニンキ■トーヒョーヲ■ヤル」と点訳し、必要であれば、「助詞を前後とあけたり、後ろの語と続けて発音している」のように点訳挿入符で説明すればよいと思います。

「私の　ために
お　ね　が　い
もう　あと　そう　ながく　い　き　な　い
おね　がい　お　ね　がい」
この場合は、原文の通りに空白のところをマスあけしても、読みにくくはないと思います。
「ワタシノ■タメニ■オ■ネ■ガ■イ■モー■アト■ソー■ナガク■イ■キ■ナ■イ■オネ■ガイ■オ■ネ■ガイ」

５.

次のように同じ言葉を書き分けている場合、どのように書くとよいでしょうか。

「ふれあい」と「ふれ愛」は違う。仏像の修理修復の第１人者で、京都の愛宕念仏寺の住職だった西村公朝との出会いから２０年が過ぎ、僕は「ふれ愛」の意味が少しだけ理解できたような気がしています。大学院生だった僕はふれ愛観音のことを知り、愛宕念仏寺を訪ねました。（略）

でも、当時の僕には「ふれ愛」の真意がわかっていなかったのです。「ふれあい」は福祉系の催し物や施設名でよく使われています。「ふれあい」とは、多数派（健常者）からの押し付けであるらしいというのが僕の印象です。

ここで「見る」と「みる」の違いを説明しておきます。いうまでもなく、視覚で事物をとらえるのが「見る」です。・・・・・　一方、「みる」とは全身の感覚を総動員して事物をとらえることです。

というような文章で、その後の文に
「ふれあい」と「ふれ愛」、「見る」と「みる」が何度も出てくる場合、点訳で区別をしないといけないと思うのですが、どのようにしたらよいのでしょうか。そのたびに点訳挿入符をつけるのもどうかと思うので、凡例でことわって、指示符を使うとか、カギを変えるとかしてもいいのでしょうか。

【A】

ご質問の文の場合は、原文でも、カギで囲まれているようですので、お考えのように、点訳書凡例や点訳挿入符で断って、片方(一般的な「ふれあい」「見る」）を第１カギで囲み、著者がこだわりのある方（「ふれ愛」「みる」）を第２カギで囲むという方法が分かりやすいと思います。

６.

「連合国軍」の切れ続きについて、点訳ナビゲーターと点訳フォーラムの両方に語例があるのですが、点訳ナビは一続き、点訳フォーラムは、国軍の前で区切っています。このように、ヨミやマスあけで両者が異なる場合、どちらを優先した方がよいというのはありますか。

また、「国軍」で検索すると、点訳ナビは「連合国軍」のみ、点訳フォーラムは「共和国軍」など４例（全て国軍の前で区切って書く）あります。もし、上記の質問で点訳ナビを優先するということになった場合、「共和国軍」なども一続きということになるのでしょうか。

実際にでてきたら、優先される点訳ナビで共和国軍を検索し、みつからないので点訳フォーラムを検索、区切って書くのでこれを採用、となってしまう気がするのですが。

現在点訳の際には、圧倒的に点訳フォーラムの方が語例数が多いので、点訳フォーラムのみを検索してしまっています。両者が割れている例が出てきてとまどっております。

【A】

点訳フォーラムでは、「点字表記の語例」を検索することによって、その語だけでなく、類似の語の表記も類推できるよう語例の収載に努めています。

「連合国軍」については、語の成り立ちが「連合＋国＋軍」（２＋１＋１）で、「国軍」が多くの国語辞典に見出し語として載っている自立した意味のまとまりですので、区切って書く事としています。そして、「共和国軍」「日本国軍」「フランス国

軍」も同じ成り立ちであることを示しています。
このようなことは、他の語を検索してもお気づきになると思います。より多くの語例、点訳で遭遇した身近な語例をできるだけ蓄積し、それらが「てびき」の規則で説明できるような表記にしています。

「点訳のてびき」は、発行までに、案を２度全国に提示して意見を求め、それらを検討した上で、最終的には「全視情協総会の承認」という手続きを踏んで、組織決定を行っています。これに対して、「点訳ナビゲーター」の表記は、その時々の点訳委員会の協議で決めていて、全視情協が組織決定を行ったものではありません。委員の交代によって表記が揺れていく恐れがあります。

「点訳ナビゲーター」の表記は、「てびき」の語例に採用されているもの以外は、あくまでも参考資料となります。
長い目で見て揺れのない一貫した方針で「てびき」に準拠した点訳を行っていくのであれば、点訳フォーラムを拠り所にされることをお勧めいたします。
なお、「点訳フォーラムとは」も合わせてお読みいただければ幸いです。